



コミュニケーションの道具としてメールが普及してきたことで、身近な人との会話に変化はあるのでしょうか。「会話」について、こんな声が寄せられています。

「やっぱり会話は直接話した方がいいと思う」(10代男性)

「本当の意味のコミュニケーションは直接会って話すことだと思う。電話、メール、手紙などは伝達の手段に過ぎず、コミュニケーションは相手の表情から気持ちも一緒に伝える事ができる『あつて会話する』が一番望ましい」(50代男性)

「様々な媒体でのコミュニケーションが可能なの世の中ですが、やっぱり会って話をするのが一番」(30代女性)
多くの人が、メールなど様々な媒体を使いながらも、やはり直接会って話すことが最も望ましい、と感じているようです。

しかし、一方では、
「口下手だから、直接よりチャットの方が素で話せる」(10代男性)

「不足であったり、へたであったりすることは解っているが、これからどうすることもできない気もするし、このままでOKという気もする」(60代男性)

と、直接の会話を苦手とし、会話不足のままで過ごす人もいます。

「男は黙って・・・なんて現代にははやらない。うちでは夫婦のコミュニケーションをどうするかが課題です」(30代女性)

「コミュニケーションは双方の関係で成り立つもの。相手を思いやる心と、手間をおしまない対応を継続させる中で生まれるのではない。待っているだけ他力本願では生まれないでしょう」(60代女性)

このままでいいと諦めたりせず、コミュニケーションがよりよい方向にむかうよう、日々、努めていきたいものです。

最近、会話していますか？

誰と、どんな話をしているのか聞いてみました。

各世代とも、最もよく会話をするのは、友人」と答えた人が多く、特に10代から30代で顕著でした。

「友人」の次に、「パートナー」「家族」「同僚」と、会話をする相手が続いています。既婚の男性だけに限ると、最もよく話す相手は、妻」という人が多いようです。

話題は、日常の出来事や時事問題・趣味などで、これは世代を問わず共通しています。その内容を細かくみてみると、年齢を重ねるに従って、「子ども」「仕事」から「健康」「老後」へと移り、立場や生活状況の変化を映し出しています。

そして、この生活環境が変わること、人との付き合いが難しくなる場合もあるようです。

「人と話すにしても、時間が合わないことが多い」(30代男性)

「子供が生まれると、子持ちじゃない人と連絡がとりにくくなる」(20代女性)

忙しい毎日の中、時には「最近会話している？」と自分自身に問いかけ、会話不足・コミュニケーション不足を解消していきたいものです。

「小学校の教諭をしています。子ども達の間で自分の考えを相手に伝えたり、相手の言葉に耳を傾けたりするなどのコミュニケーション能力が年々衰えてきているのを感じます」(30代女性)

「ちょっとした挨拶から声かけでも気をつけないとコミュニケーション不足による問題っておおきいなあ」と最近実感しています」(30代女性)

会話の効用

「悩みは誰に話しますか？なぜその人ですか？」と聞いたところ、ここでも「友人」と答えた人が多く、次に「パートナー」「家族」と続いています。

その理由としては、「自分のことを理解してくれる」が最も多く、続いて「信頼できる」「話しやすい」「身近な人」「的確に納得いく判断をしてくれる」という意見がありました。その一方で、「悩みは誰にも話さない」という意見も複数あり、男性に多く見つけられました。

「話すことは、自分の考えがよくわかったり、自分を知ることによって癒されたりする。悩みを聞いてもらってはげまされたり……。友達でも夫婦でも、特に子どもの成長には言葉やスキンシップは大切。一番心に響くのは、会って話すあ